

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2017年4月8日発行

松蔭中学校・高等学校

校長 浅井宣光

あなたがたは神に選ばれ、聖なる者とされ、愛されているのですから、憐れみの心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。
(コロサイの信徒への手紙 3:12~14)

桜の季節に想う

桜の季節も間もなくという3月下旬、先生方との雑談で水上勉の小説「櫻守」が話題に上りました。各地の由緒ある桜の手入れをする主人公の櫻守は桜を愛し続け、自分をその根元に埋葬して欲しいと願うまでになりました。東灘区岡本に一昨年開園した認定こども園、松蔭おかもと保育園がありますが、ここから5分ほど東に歩いたところに小説のモデルとなった人物の邸宅跡があり、現在「櫻守公園」と呼ばれて地域住民に親しまれているそうです。古くから岡本という梅林で知られていましたが、閑静な住宅街におしゃれなカフェや雑貨屋が点在しています。先日甲南大学を訪問する機会がありましたが、このエリアの空気感に触れると、ハーバーランドや北野異人館街でのまち歩きとはまた別の「神戸らしさ」を実感します。

校内の桜はというと、先月末からの花冷えのためか平年より遅咲きで、まさに今、桜花爛漫の季節を迎えています。学校最寄りの王子公園や新神戸生田川沿いの桜の下でも花見の宴が行われています。インバウンドと呼ばれる外国人観光客向けの花見ツアーもあるとのこと。桜は古来和歌に詠まれてきましたし、ヒット曲にも「桜坂」「桜」「SAKURA」とあげ出すときりはありませんが、中でもお気に入りのメロディーは森山直太朗の「さくら」です。『刹那（せつな）に散りゆく運命と知って、さらば友よ旅立ちのとき、かわらないその想いを今』と短い花の命と変わらぬ思いを対比させるサビの部分は、この季節の別れの悲しみを癒し、新たな出発を勇気づけてくれます。

先月の新聞に、小説家の城山三郎の没後10年にあたってコラム記事が掲載されていました。彼は生前、満開の桜を気楽に眺めることができず、横を通る時はつい早足になると語っていたそうです。第二次大戦末期に海軍の特攻隊要員だった彼にとって桜は、失われた多くの命の散華の象徴であったのです。「桜の木の下には屍体（したい）が埋まっている」と小説の冒頭に記したのは梶井基次郎です。初めてこの書き出しを読んだ時の何とも言えぬ衝撃は、妙に得心した記憶とともに心に残っています。満開の桜に向き合うとき、ある人はその匂い立つばかりの華やぎを、ある人は桜舞い散る模様に物事の儚（はかな）さを、ある人は移りゆく自然に不変の思いと、人それぞれに様々な見え方があるのでしょうか。この季節に大切な人を失っていたとしたら、絢爛の桜は日常に埋もれてい

た哀しみを毎年心一杯に広げることになるのでしょうか。

今年の桜の季節は、私にとって物事の多様な見方に気付くことや想像することの大切さについて考えさせる日々となっています。様々な出来事や事件についての報道を見るにつけ、一面的で一方的な理解や自己本位の解釈では真実を見ることにはならないことを感じます。「当事者意識」という言い方があります。ある出来事に直接または間接的に関わる全ての人を指すのならば、満開の桜に異なる見え方があるように、当事者一人ひとりにとって視点も深みも濃淡も全く異質のものがあります。先週の始業式には冒頭の聖句が読まれました。物事の見え方には多様性があることを常に意識し、互いの思いを大切にしてお互いに関わる全ての者どうし、謙虚に向き合う学期としたいものです。

ともあれ清新な空気とともに新年度が始まりました。校舎4階の山側の窓から見る摩耶六甲の峰々の新緑と浜側のベランダから望む開港150年を迎えた神戸港に、灘区青谷の地の素晴らしい教育環境を実感します。2018年度実施予定の学校6日制の準備も本格化します。新たな松蔭中学校高等学校の1年のスタートです。保護者の皆様にはお子様のご入学ならびにご進級をお祝い申し上げます。今年度の学校の体制についてお知らせするとともに、保護者の皆様のご理解とより一層のご協力をお願いする次第です。希望の新学期スタートです。ご心配の点などは遠慮なくご連絡ください。

2017年度松蔭中学校 松蔭高等学校の役職者（教員は担当教科名）

理事長：	中村豊	校長：浅井宣光（社会）	事務長：平田健二
中学副校長：	番場靖子（家庭）	高校副校長：芳田克巳（国語）	
学年主任：	永井晃（中1・英語）	岳藤史泰（中2・保健体育）	吉川祐子（中3・数学）
	上原美由紀（高1・国語）	奥田豊弘（高2・社会）	川中啓嗣（高3・数学）
部長：	赤尾友規（宗教部・社会）	大槻泰史（教務部・理科）	中川雅博（生徒部・数学）
	若木浩幸（総務部・社会）	佐々木聡（進路指導部・国語）	小林裕典（入試広報・数学）

「3つの姿勢」を大切にす松蔭生に

始業式で次の「3つの姿勢」を身に付けることを今年度の目標とすることを式辞として話しました。礼儀作法やマナーを身に付けることに留まることなく、積極的に学び、人を大切にし、制服を美しく着こなす素敵な松蔭生を目指して生徒の自覚を促す指導をすすめます。

- （1）自ら学ぶ姿勢。（自学自習の姿勢を身に付ける）
- （2）人と向き合う姿勢。（すすんで声を出して挨拶し、丁寧な言葉遣いをする。相手を思いやる）
- （3）誇りある姿勢。（制服を美しく着こなす。周りへの気配りや配慮を欠かさず、マナーを身に付ける）

特に挨拶については、「2016年度学校評価アンケート結果」（詳細は後日、報告する予定です）でも「いつも自分から挨拶するよう心がけている」という設問で、「とてもそう思う」と回答した中学生は3割でした。松蔭生はシャイなのか、すすんで声を出して挨拶することが苦手だと感じています。「親しきなかにかに礼儀あり」「近しき仲にも垣を結え」ということで、今年度は「すすんで声を出して挨拶をすること」「言葉遣いを丁寧にするこ」を新年度の教職員の申し合わせ事項として確認しました。学校全体で取り組みます。保護者の皆様におかれましてもご協力をお願いいたします。（裏面に続く）

夏休みの補習と中学生登校日

夏休み中の補習については、1学期終業式の翌週と、2学期始業式の前週の各1週間を補習期間とし、集中的に行うことにしています。また中学生については、後半の補習期間の8月28日（月）、8月29日（火）の2日間を登校日とし、宿題テストおよびホームルームを実施します。午前中の登校となりますが、ご予約くださるようお願いいたします。詳細は後日各学年より連絡があります。

タカラジェンヌへの切符

3名の松蔭生がタカラジェンヌへの切符を手にししました。先月30日の合格発表で、競争率26倍の宝塚音楽学校入学試験を見事突破したのは、旧高校1年、2年、3年の各学年から1名ずつの計3名です。3名もの合格者が同時に出たのは初めてではないかと思います。松蔭を後にされることは心寂しばかりですが、彼女たちは105期生として新たな環境のもと、レビューの舞台に立つという夢の実現に向けてそのスタートラインに立っています。これまでの努力をたたえてお祝いの言葉とエールを送るとともに、今後の活躍を祈りたいと思います。生徒の皆さんも、まずは目の前にあることに一生懸命取り組みながら、得意分野を見つけ、目標を定めて努力を重ねていってほしいと思います。

今年度もPTA活動にぜひご協力を

PTA会長、副会長の信任投票期間が始まっています。「できる人が、できる範囲で、楽しみながら一緒にPTA活動」がモットーです。ご協力をよろしくお願いします。

兵庫県内美術館・博物館の高校生無料化

4月1日より、下記の施設で高校生の入場が無料になりました。兵庫県立美術館については、松蔭女子学院との間の「キャンパスパートナー協定」により、昨年秋から入館無料となっていました。さらに他の県関係の施設も無料で利用できるようになります。なお、中学生は「ひょうごっ子ココロンカード（兵庫県）」「のびのびパスポート（神戸市）」を持参すれば、下記施設はもちろん、多くの施設への入館が無料となっています。

兵庫県立美術館	住所:神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1	TEL:078-262-0901
兵庫県立歴史博物館	住所:姫路市本町 68 番地	TEL:079-288-9011
兵庫県立円山川公苑美術館	住所:豊岡市小島 1163	TEL:0796-28-3085
兵庫県立人と自然の博物館	住所:三田市弥生が丘 6 丁目	TEL:079-559-2001
兵庫県立考古博物館	住所:加古郡播磨町大中 1-1-1	TEL:079-437-5589
古代鏡展示館	住所:加西市豊倉町飯森 1282-1	TEL:0790-47-2212
横尾忠則現代美術館	住所:神戸市灘区原田通 3-8-30	TEL:078-855-5607
兵庫陶芸美術館	住所:篠山市今田町上立杭 4	TEL:079-597-3961

※各施設で行われるイベントで有料のものがあります。詳細については各施設までお問い合わせください。